タウト塾@熱海 2022

東山荘（とうざんそう）

令和4年度

02

- ■熱海東山
- ■東山荘
- ■一期・石井
- ■二期・山下
- ■三期・岡田
- ■みがき隊

国登録有形文化財
東山荘

現在の熱海東山

熱海駅前・相模湾を一望する“永遠なるもの！”の場“東山”

国登録有形文化財
東山荘

昭和から令和に至るまでの様々な施設が佇み
未だその魅力を醸し出している

国登録有形文化財
東山荘

丘の上には「東山荘」「旧日向別邸」「海峯楼」が建ち並ぶ

称して「東山トリオ」協働して東山を元気づける

東山頂部

- 海抜　約90m
- 駅より20m高い場所
- 相模湾を眺望
- 頂きに隣接しあう
  3施設
  「東山トリオ」

国登録有形文化財
東山荘

東山荘は相模湾を望む1100坪の敷地に建つ7棟
国登録有形文化財

国登録有形文化財
東山荘

相模湾を望む

国登録有形文化財
東山荘

東山荘
三代により造られ保存されてきた登録有形文化財

昭和　8年、第一銀行頭取であった**石井健吾**氏の別邸として建築
昭和14年、山下汽船（現・商船三井）の創業者**山下亀三郎**氏所有
昭和19年、世界救世教・**岡田茂吉**氏が譲り受け「東山荘」と命名

石井健吾氏
第一銀行頭取

山下亀三郎氏
商船三井創業者

岡田茂吉氏
世界救世教

東山荘　配置図
— 全７棟 国の登録有形文化財 —

第一期 昭和8年　第一銀行３代頭取・石井健吾
第二期 昭和14年　山下汽船初代社長・山下亀三郎
第三期 昭和19年　世界救世教教祖・岡田茂吉

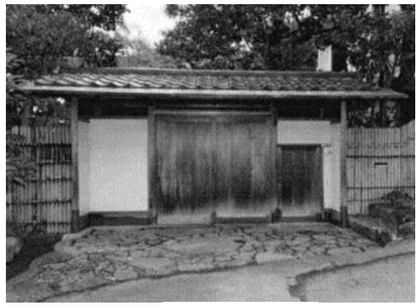
1 正門　2 離れ　3 本館　4 物置
5 別館　6 茶室
7 蔵

国登録有形文化財
東山荘

東山荘　国登録有形文化財7棟

石井健吾氏

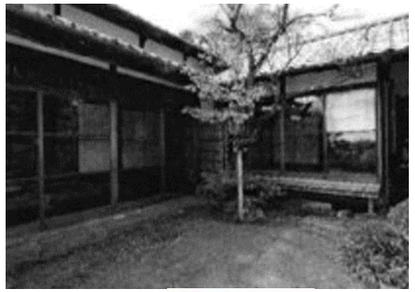
3 本館

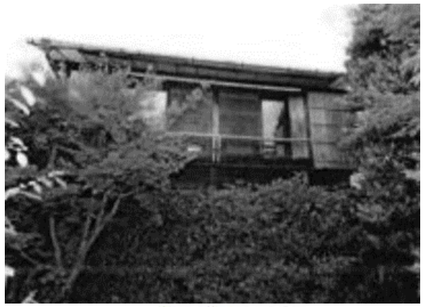

1 正門

2 離れ

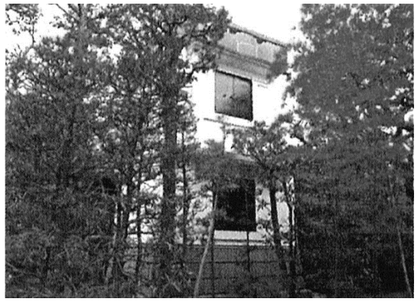
4 物置

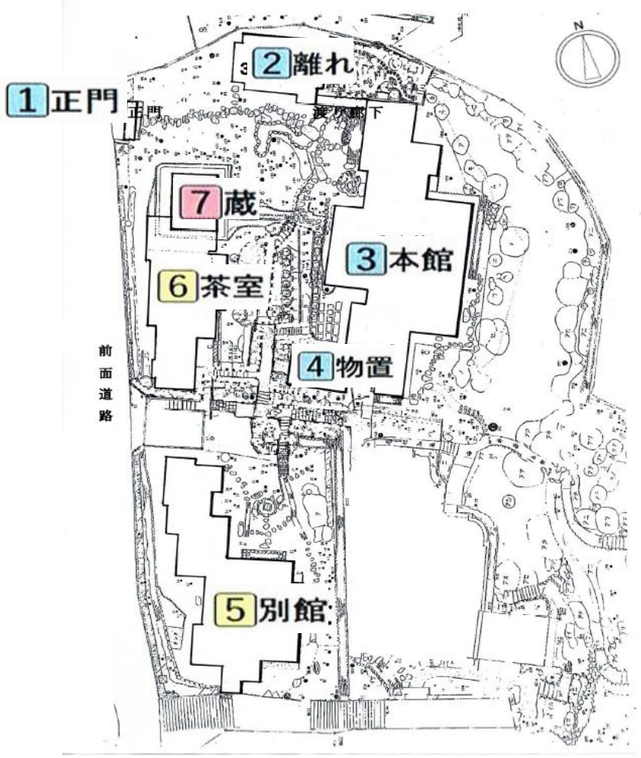
山下亀三郎氏


5 別館


6 茶室

岡田茂吉氏


7 蔵



国登録有形文化財
東山荘

東山荘　第一期・石井健吾旧邸

第一期 昭和8年　第一銀行３代頭取・石井健吾　1正門 2離れ 3本館 4物置

石 井 健 吾

石井健吾氏　第一銀行3代目頭取

第一銀行の経過

統一金融機関コード0001の第一銀行
1873年（明治6年）**渋沢栄一**創設。日本最古の銀行
第一国立銀行→＜第一銀行＞→第一勧業銀行→みずほ銀行

第一国立銀行は、民間資本による民間経営の株式会社。
国立銀行条例により発券機能等を有していた。

第一銀行は、国立銀行条例による営業免許期間終了に伴い、
1896年（明治29年）に第一銀行となる。

第一勧業銀行　1943年（昭和18年）太平洋戦争戦時下の国策により三井銀行と合併し**帝国銀行**となる。
1948年（昭和23年）には再分割し**第一銀行**として再建。
1971年（昭和46年）に日本勧業銀行と合併し**第一勧業銀行**。

みずほ銀行　そして現在のみずほ銀行として営業。

- **石井健吾は渋沢栄一の書生していた。**
- **第一銀行横浜支店長時代山下亀三郎の資金援助。**

東山地域は、石井他日本興業銀行結城氏や朝鮮銀行総裁加藤氏も別荘をもった高級別荘地であったことから「銀行村」とも称されました。

第一国立銀行

渋沢栄一

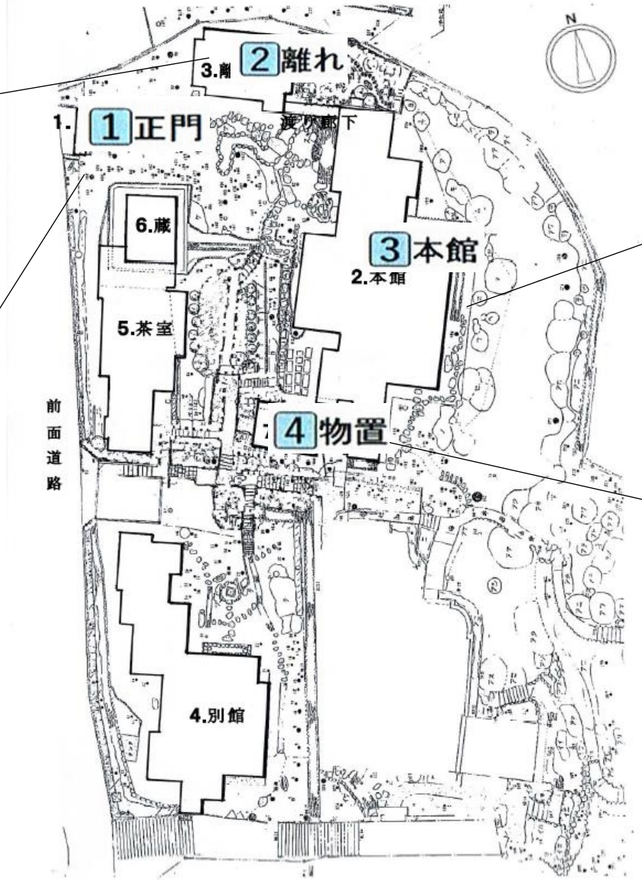
国登録有形文化財
東山荘

石井健吾旧邸　　配置

第一銀行（現みずほ銀行）頭取であった石井健吾氏は、病気療養の為に本館を建設し、離れ、物置、正門を整備しました。

2 離れ

1 正門



昭和８年 12 月 12 日撮影の東山荘全景（撮影・清水建設）

3 本館

4 物置

- 正門、本館、渡 り廊下、離れ、物置で、清水組（現清水建設）の設計施工で完成。
- 当初に本館、正門、物置が造られ、離れと渡り廊下はその３年ほど後に完成。
- 庭園は 宮内庁出入りの庭師・初代蛭田庄二が作庭。相模湾を望む大海原を生かしての借景庭園 。

国登録有形文化財
東山荘

石井健吾旧邸　　本館

建物の概要

建築用途：住居
構造規模：木造２階建て、一部ＲＣ地下
建築面積：239.38 ㎡
建築：昭和８年（1933年）
外部仕上げ：漆喰塗り、一部下見板張り
屋根：入母屋造窯変一文字瓦葺、
一部銅板葺

昭和８年12月12日撮影の東山荘全景（撮影・清水建設）

絶景を望める２階広縁は本館の一大特色。岡田茂吉はここからの眺望を
「宛さながららに天国と覚ゆ眺めよき山地ひらきて世人救はん」と詠じ「瑞雲郷」を構想。

瑞雲郷

本館東窓より山側を望む

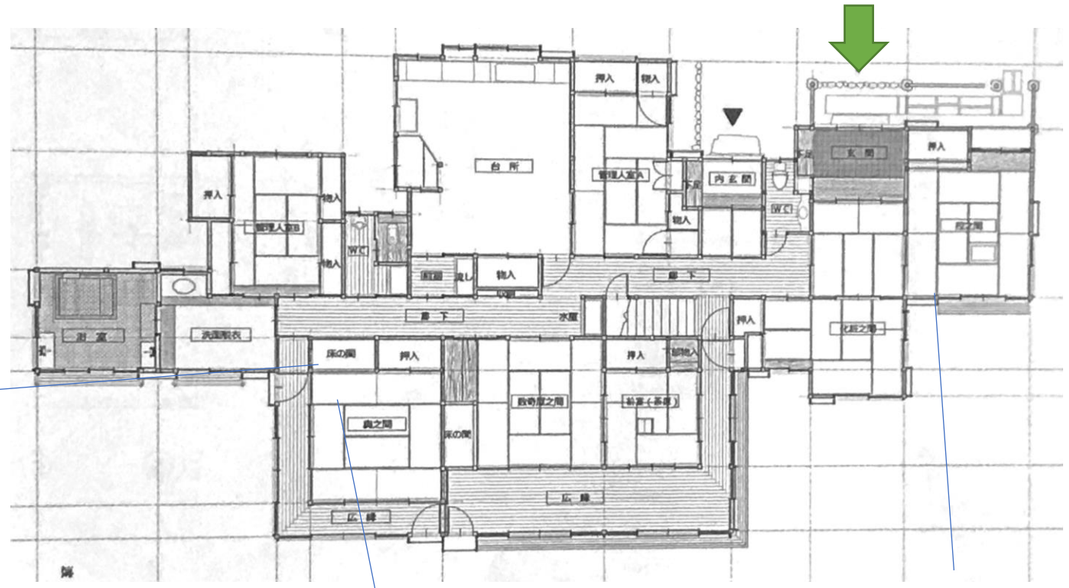
岡田茂吉氏は居住し桃山の雄姿を眺めては「**瑞雲郷**」を構想した。

現在MOA美術館、救世教会館、水晶殿など、その多くの関連施設が建っています。

国登録有形文化財
東山荘

東山荘　　本館-　1階

相模湾を望む二階建で、上下階とも座敷二室に縁を廻らす。下階は北に玄関、南を浴室としています。
全体に数寄屋を加味した繊細な意匠を基調とし、東面は大きなガラス窓をたて、開放感をもたせています。



玄関前

玄関

初代自室

玄関から和室先

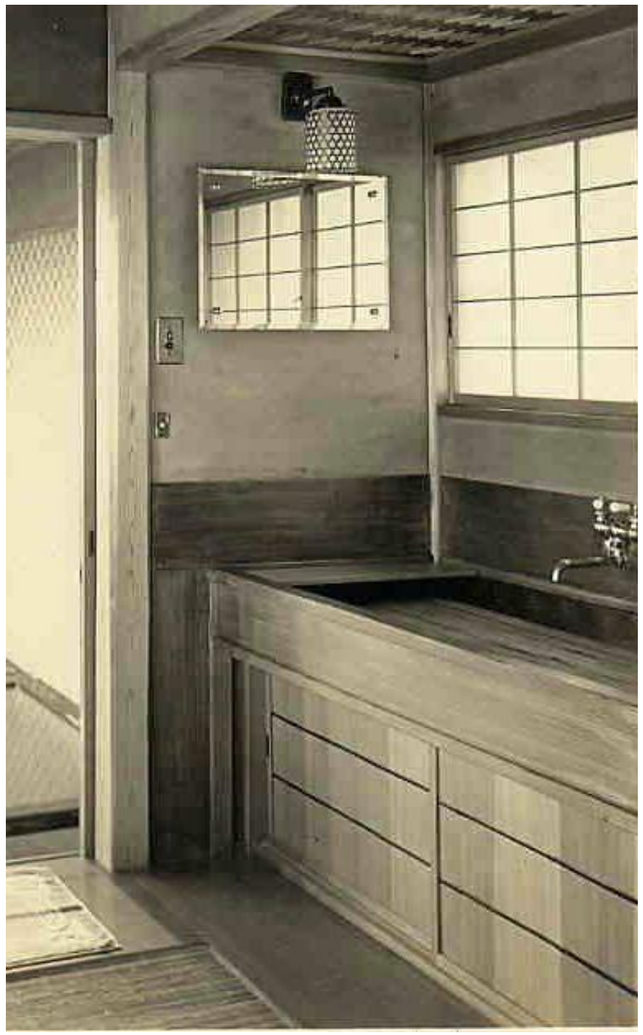
本館　1階居間

1階の居間は、広縁を通し庭園、海を眺められます。初代石井健吾の療養の為に作られました。
三代岡田茂吉は、家族8人の食事や団らん、毎日の新聞朗読、口述筆記による論文を作成した場所です。

本館居間

初期の風呂と脱衣所

庭園、さらには相模湾を望むことが出来る広い浴室、脱衣室の改修も完了しました。



脱衣所

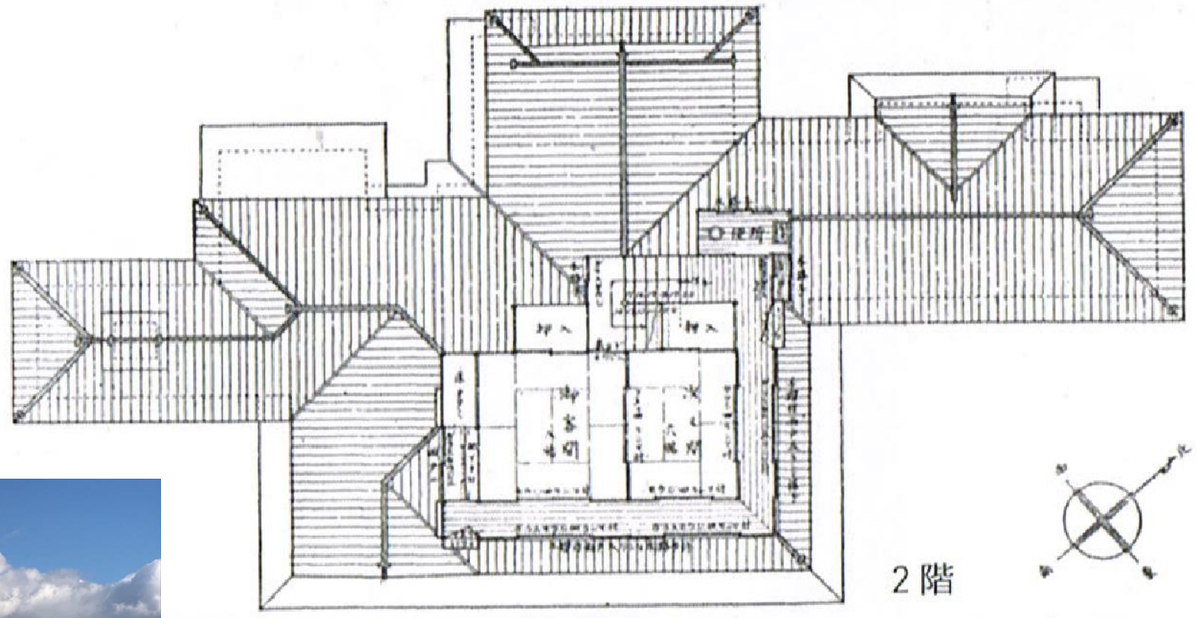
脱衣所の猫目障子

復元▶

国登録有形文化財
東山荘

本館-　2階

建物のほぼ中央に広縁を有する6畳間（12畳間）を設けました。相模湾への眺望は見事です。



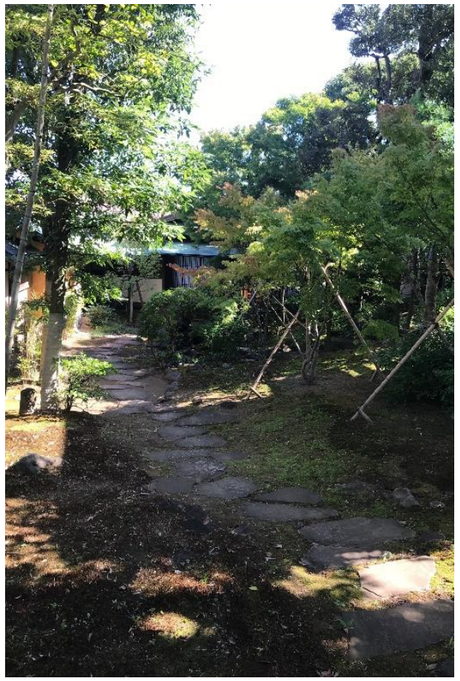
東山荘　　正　門

道路側よりの正門

四脚門様式の数寄屋門

切妻屋根平入りで、屋根の仕上げは窯変瓦を用いた一文字葺き。たおやかな丸太仕事の雰囲気が漂い、数寄屋造りの特色が出ていて、別荘建築の正門として格調が高い。当時の数寄屋工匠の技術の高さが偲ばれる。

扉を開けての景観


導入路、右に離れがある

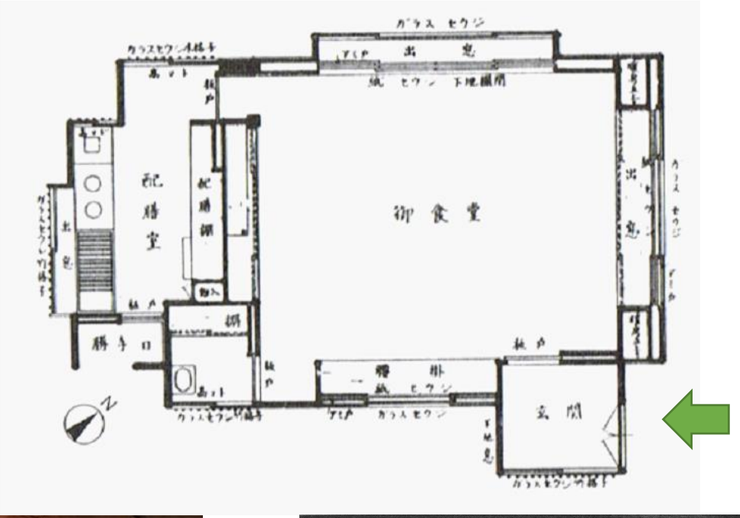
本館入口

東山荘　　離　れ（三窓庵）

本館と渡廊下で繋がる１５畳大の応接室と玄関からなっている。部屋各部や軒には多様な樹種の丸太が使われている。
応接室の主室は船底天井とし、周囲を網代天井とするなど、数寄屋意匠でまとめられ、出窓風の長椅子などは、当時の住宅づくりの様子がうかがわれる。

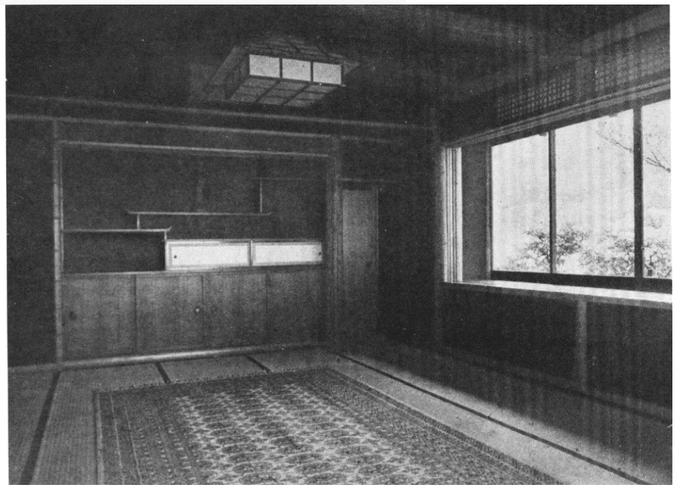
建物の概要

建築用途：応接室
構造・規模：木造平屋建て　建築面積56.19㎡
建築年月：昭和８年（1933年）
外部仕上げ：土壁（引摺り仕上）、腰杉皮張り
屋　根：寄棟造燻一文字瓦葺、一部銅板葺
建設時は柿葺き



玄関側外観

現在・床カーペット


当時・床はフローリング

東山荘　　物　置

昭和8年から今日まで使用されてきた貴重な物置．造りは堅牢で、意匠的にも吟味されていたことが2階の扉の彫刻などで覗える。屋根は本館と同じ窯変瓦を用い、敷地全体の景観を整える。

建物の概要

建築用途：物置
構造・規模：鉄筋コンクリート造＋木造２階建
建築面積：19.8㎡
建築年月：昭和８年（1933年）
外部仕上げ：下見板張り漆喰塗り（１階モルタル塗り）屋根：寄棟造窯変瓦葺き

物置は、敷地は主要建物を維持管理するためのもの。創建当時の姿が保たれている。その理由は本館、離れと同等の質からでき、全体の敷地での配置が当初から考えられており堅牢なつくりで衣装的にも吟味されていることによる。外壁は下見板張りとし、本館と同じ窯変瓦の屋根で敷地全体の景観に配慮し、一連の景観を整えている。昭和初期の和風別荘建築貴重とされる。

第二期・山下亀三郎旧邸

山下亀三郎

山下亀三郎氏　商船三井創業者

1867年（慶応3年）- 1944年（昭和19年）
愛媛県宇和島市生まれ。
勲一等。山下汽船（現・商船三井）・山下財閥の創業者。勝田銀次郎、内田信也と並ぶ三大船成金の一人といわれる。
渋沢栄一にすこぶる高い評価をうけ、また三菱との深いつながりをもった。

第 二 期 工 事
昭和14年4月、山下汽船初代社長・山下亀三郎は石井健吾より譲り受け、翌年15年に別館と茶室を新築し、本館玄関の６畳 間を増築した。
（清水組の設計施工）

MOL
商船三井

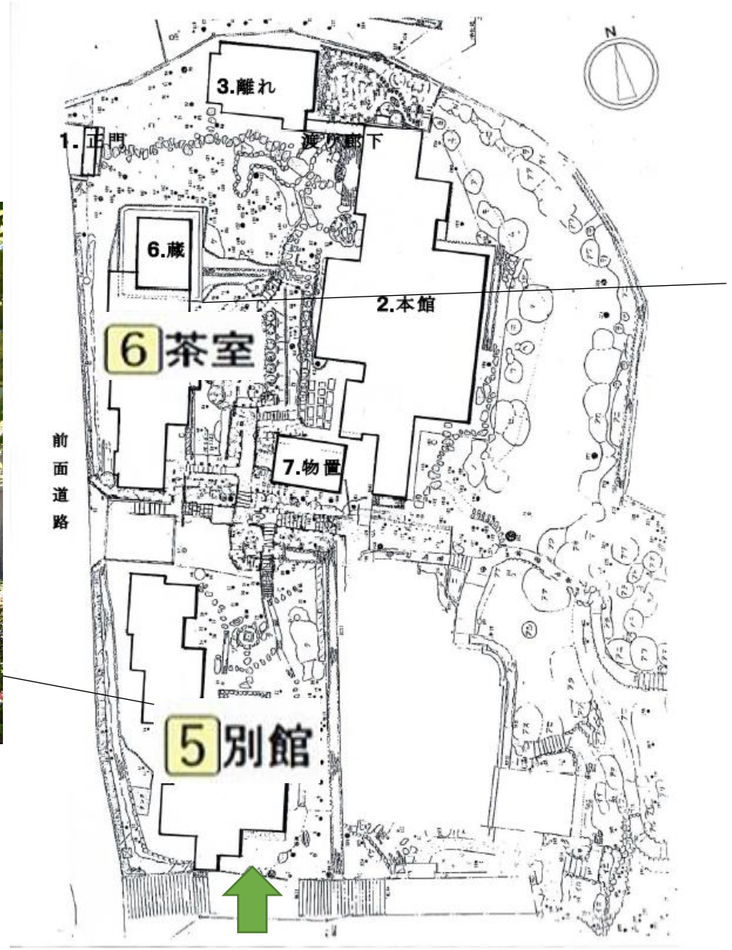
国登録有形文化財
東山荘

東山荘　　別館　・　茶室

第二期 昭和14年　山下汽船初代社長・山下亀三郎　5別館 6茶室

第一銀行の石井健吾との交流をもっていた、山下汽船の山下亀三郎は昭和14年譲りうけて別館と茶室を建設した。

5別館



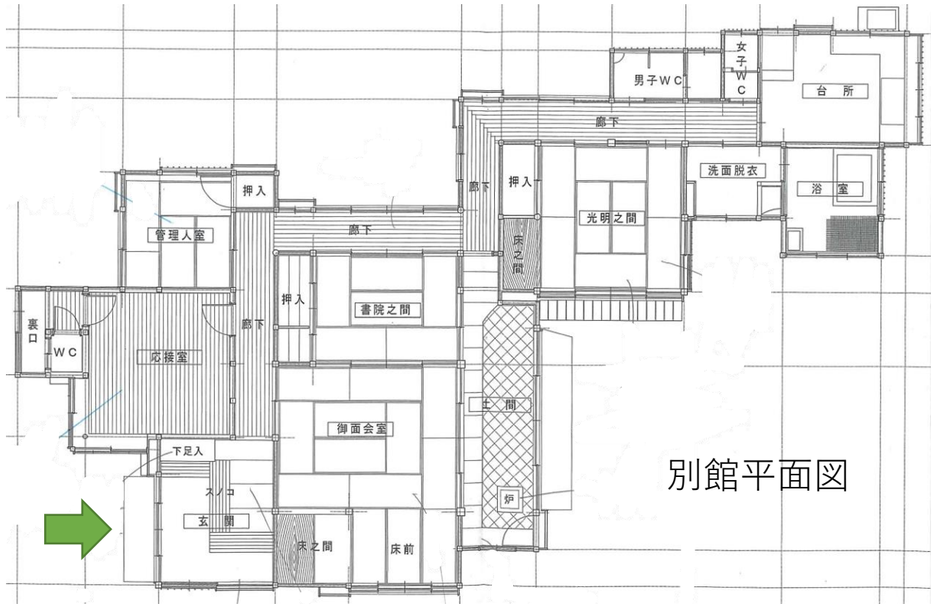
6茶室

国登録有形文化財
東山荘

東山荘　　別館（迎賓棟）

山下亀三郎は翌年の昭和15年、迎賓棟として木造平屋建ての「別館」をたてました。雁行型に部屋を配置し、各室の屋外の庭園、相模湾への景観を取り入れています。数寄屋風の意匠と太鼓斫の梁などにより野趣豊かな趣を出しています。

建物の概要
建築用途　：住居
構造・規模：木造平屋建て
建築面積　：150 .51 ㎡
建築年月　：昭和１５年（194０年）
外部仕上げ：漆喰壁 、腰竪羽目板張り
屋 根　　：寄棟造一文字瓦葺 、一部銅板葺



別館平面図

賓客のための迎賓棟

- 面会室（首座室）は、太いナグリ仕上げの栗。また床の間の框は、表千家残月亭の残月床を踏襲した２畳床となっている。軸の掛かる一畳分の地板は肥松一枚板となっている 。
- 床前の三部分は化粧掛け込み天井で並びの平天井と趣を異にしてる。
- 「光明の間」八畳間は、野趣に富んだ茶室で道庫 屋らしき痕跡が遺こる。踏込み床の栗の皮付 丸太の床柱や 一枚板の肥松の地板が特色的。

玄関側外観

現在・床カーペット

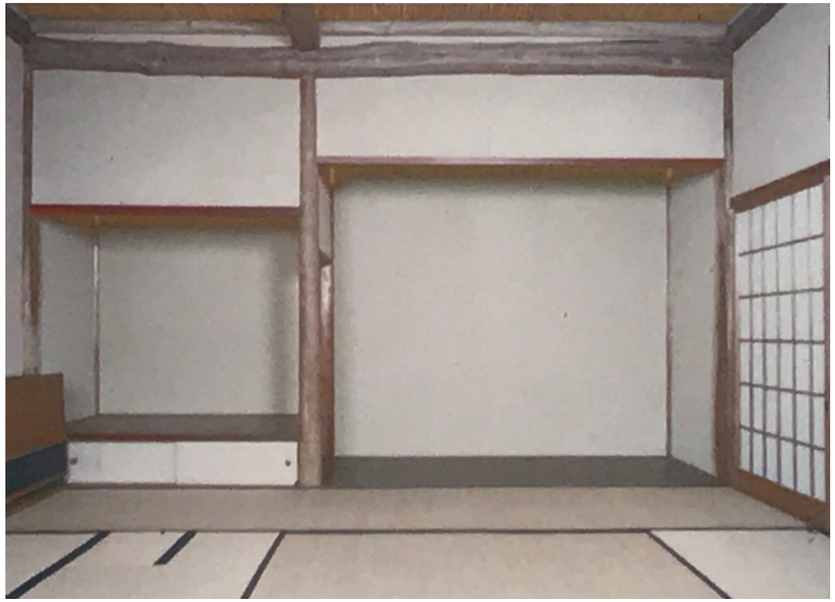
土間・瓦四半敷

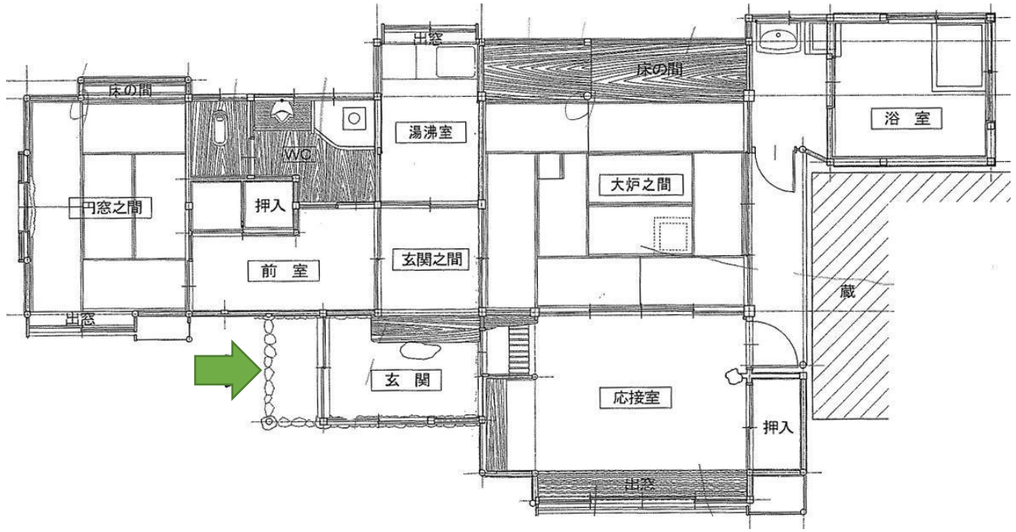
本館側より

東山荘　　茶室

本館西側のやや高い位置に南北棟で建ち、東側の応接室に縁を設ける。離れと同様の多種の丸太を柱に使い、主室となる大炉之間では、荒加工の梁組と丸竹詰張の天井を現して民家風に見せ、大振りの座敷飾りを備える。主室のほか、六畳や浴室も備えた接客施設。

建物の概要
建築用途：茶室
構造・規模：木造平屋建て建築面積63.21㎡
建築年月：昭和１５年（1940年）
外部仕上げ：壁漆喰塗り、腰竪羽目板張り、杉皮張り
屋根：寄棟造　一文字瓦葺、一部銅板葺





- 茶室は山荘風で豪奢な雰囲気をもつ10畳広間席である。
- 玄関西には3畳の水屋があったが増築時改造された。
- 主柱は別館と同じく太い栗材、天井は白竹の詰め張り、天井の受桁は栗の皮剥丸太を使用。
- 床柱は椿で 、一間の踏込み床は、肥松の一枚板となっている。
- 床の間天井は萩小枝の黒糸編みとなっている。

東山荘　第三期・岡田茂吉氏

岡田茂吉氏

岡田茂吉氏　　世界救世教

1882年（明治15年） - 1955年（昭和30年）
日本の新宗教・世界救世教の教祖。
宗教家、文明評論家、書家、画家、歌人、華道流祖、造園家、建築家、美術品収集家。

日本に理想郷をと箱根・神仙郷、熱海・瑞雲郷及び京都・平安郷を構想し箱根美術館、MOA美術館、岡田茂吉記念館、春秋庵などを創設した。
脳溢血より73歳で逝去。

MOA美術館

箱根美術館

春秋庵

国登録有形文化財
東山荘

東山荘　　蔵

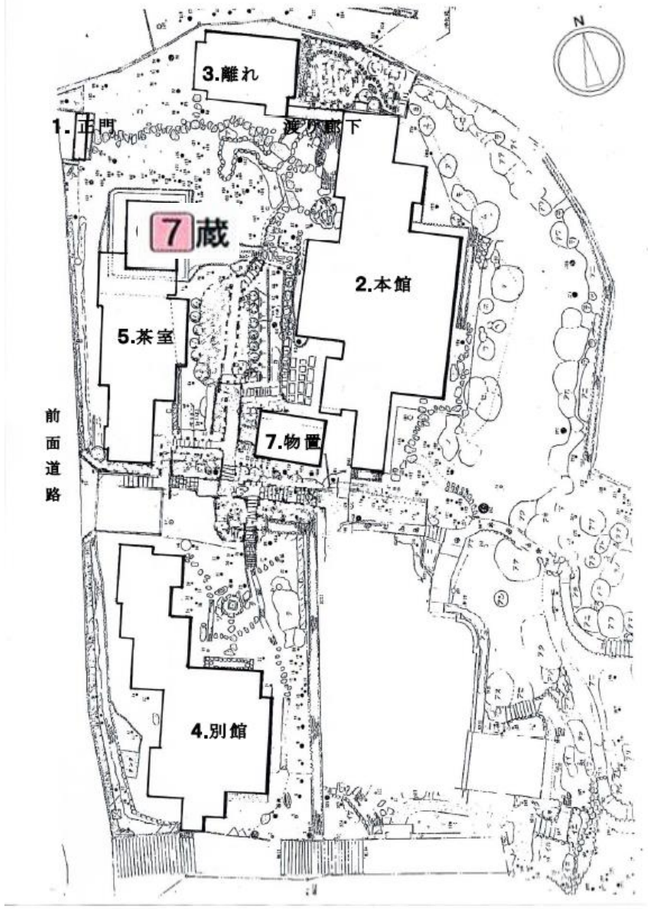
第三期 昭和19年　世界救世教教祖・岡田茂吉　　7蔵

本館南西側に建つ鉄筋コンクリートづくり二階建て。一階は高低差を利用した半地下の土間で造られた一室。二階は畳敷。

建 物 の 概 要
建 築 用 途 ：蔵
構 造 ・ 規 模： 鉄筋コンクリート造２階建て
建築面積：27㎡
建築年月：昭和２１年（194６年）
外部仕上げ：漆喰塗り、腰：洗 い 出 し
屋 根 ： 鉄筋コンクリート陸屋根パラペット付き防水モルタル

- 蔵は、蒐集した美術品の保管のために茶室に増築造営したもので、官憲から戦中戦後に弾圧を受けつつも、美による人心教化を目的とした美術館構想の実現のため、美術品を蒐集し続けた 。
- ＭＯＡ美術館の創始者岡田茂吉が昭和１９年１０月に東山荘に入居してから造営 。
- 後のＭＯＡ美術館建設の礎となった蔵。

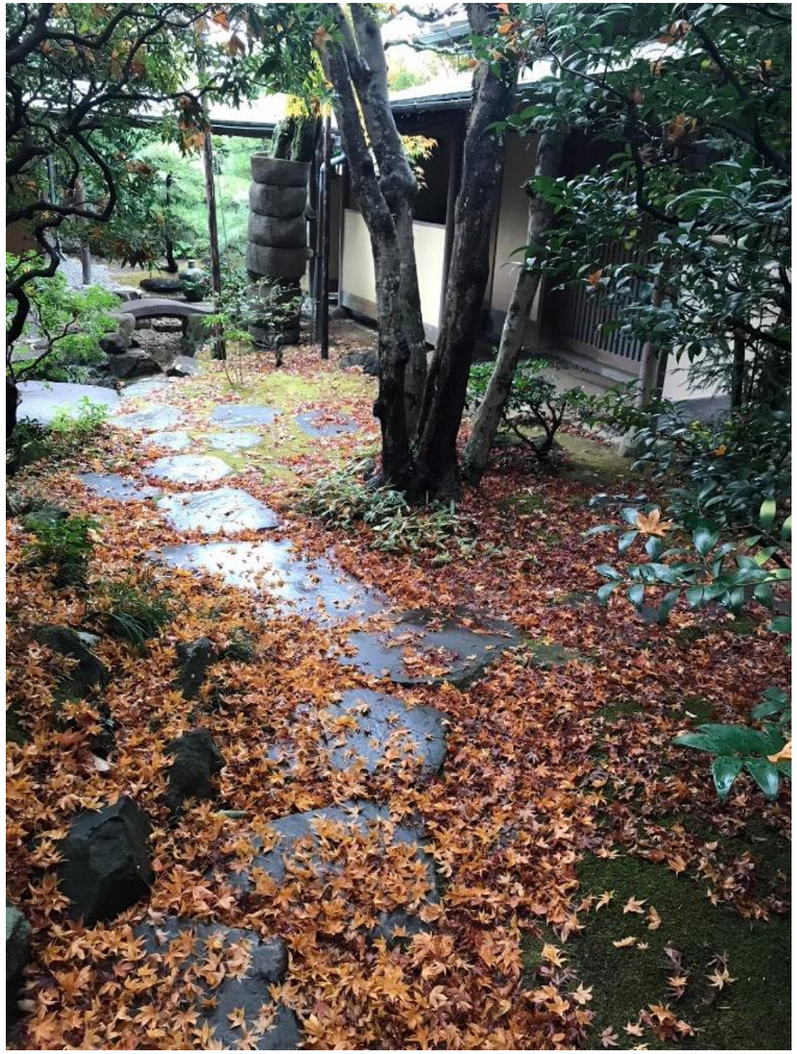
配 置 図



国登録有形文化財
東山荘

東山荘　　庭　園

初代石井健吾は、宮内庁出入りの庭 師・ 初代 蛭田庄二 が作庭。相模湾を望む 大海原を生かして の 借 景 庭 園をつくりました。



国登録有形文化財
東山荘

名建築・みがき隊

東山荘を主なる拠点として、名建築・みがき隊というボランティアグループが結成されています。内容は、「みがき」を中心とした手入れを大切に考え、実際に体を動かしながら、名建築が持つ美しさを探求しています。そして、名建築の「価値」を知り、その「保存」の方法を学び、「活用」と「継承」の在り方を皆で考えることを目的としています、

1. はじめに

日本の気候風土や文化に根差し、時を経て現代に残る名建築は、懐かしさや親しみと共に、凛とした美しさを秘め、時に息を呑む程の緊張感があるとさえ言われています。その美しさの中にある緊張感は、私達に大切な事を伝えてくれています。

名建築・みがき隊では、「みがき」を中心とした手入れを大切に考え、実際に体を動かしながら、名建築が持つ美しさを探求します。

そして、名建築の「価値」を知り、その「保存」の方法を学び、「活用」と「継承」の在り方を皆で考える、そのような場でありたいと願っております。

「みがく」

見学 …	見て学ぶ	名建築を見て	知る
磨く …	材を磨く	名建築に触れて	学ぶ
皆楽 …	皆で楽しく	名建築に集い	考える

2. 「みがき」

磨くという行為は、私たち日本人にとって単なる清掃に及ばす、自己を錬磨するという意味合いも持ちます。

そして、「み・が・き」は「美・我・輝」（我、美しく輝く）で、「みがき隊」は、「我、美しく輝きたい」との意味です。

名建築・みがき隊では、「みがき」という手入れを通じ、名建築に関わる一人ひとりが美しく輝ける場でありたいと考えております。

ワークショップ（基本三部構成）

第一部：座学…名建築の価値を学び、姿を心に写す「学」「心」
第二部：実践…手を動かし磨き、手入れ技法を実践「動」「技」
第三部：定着…静かな時間の中で名建築を体感 「静」「体」

タウト塾@熱海

2022

東山荘（とうざんそう）

令和4年度

02

■熱海東山
■東山荘
■一期・石井
■二期・山下
■三期・岡田
■みがき隊